

◇ 851 奥鬼怒/日光沢温泉～鬼怒沼湿原

期 日 10月25日(木)～26日(金) 快晴&晴れ

参加者 13名

費用 ¥14,340(大宮起点 交通費¥5,640 宿泊¥8,300 その他)

コース 1日目 東武大宮 7:14＝春日部＝9:30 鬼怒川温泉 10:15＝女夫淵 11:50—奥鬼怒遊歩道—八丁の湯 14:00—加仁湯 14:20—日光沢温泉 14:40

2日目 日光沢温泉 7:00-第一展望台 7:40-第二展望台 8:10-鬼怒沼 9:30～10:30-第二展望台 11:15-第一展望台 11:45-日光沢温泉 12:15～13:00-奥鬼怒遊歩道-14:45 女夫淵 15:35＝鬼怒川温泉 17:10 解散

1日目 快晴の鬼怒川温泉駅から女夫淵(めおとぶち)温泉に向けスタート。紅葉の奥鬼怒に感激しながらバスに揺られて1時間半。ヒンヤリとする女夫淵に降り立ちいよいよ出発。鬼怒川にかかる「鬼怒の中將乙女橋」を渡るといよいよ遊歩道に入る。紅葉真っ盛りの鬼怒川沿いの整備された遊歩道は歩き易くなだらかに登って行く。河原での昼食も木々の色着きを堪能しながら楽しむことができた。川に注ぎ込む沢に幾筋の滝が見られ水音も心地よい。皆、遊歩道に止まっては歓声と休まないシャッター音が各所で続く。「八丁の湯」に着くと玄関に立つ楓の赤の見事にさらに感動。足湯場のある立派な建物の「加仁湯」では玄関に新ハイサービステーション看板があり、山仲間がよく利用するのだろうか・・・?今夜お世話になる奥鬼怒温泉郷の一番奥に位置する「日光沢温泉」は未だに山小屋の雰囲気を残してくれている宿で木造の軋みが味を醸し出す。男性陣は混浴の露天風呂で日頃の疲れを癒すように長湯する。久しぶりの山菜やイワナ料理と露天風呂での満天の十一夜の月に明日の英気を養う。

2日目 川音に雨かと思えば外を見ると青空。荷物をデポし鬼怒沼に向けスタート。宿の建物をくぐった階段に鬼怒沼と根名草山の分岐がある。鬼怒川にかかる箴音(おさおと)橋を渡り丸沼分岐に向かう。分岐を右に折れていよいよジグザグの見上げるような急登に取り付く。高度差 700㍎だ。きつさに喘ぎ高度を稼ぐ。ひとしきり頑張ると「オロオソロシの滝の第一展望台」に着く。滝は対岸の岩の斜面にあり大きな滝だ。根名草山も見える。第二展望台の“あすなろの大木”までまた急登が続く。道の荒れているところはよく木道などで整備されているので安心する。シラビソや熊笹の中を抜けるとコメヅカ・トウヒ・アスナロの巨樹の薄暗い原生林の道になり道は緩やかになる。しばらくすると数日前の初雪の残る木道が続き鬼怒沼の南端の入口に飛び出した。前方がパツパツ開けホット一息! 歓声が起こる。そこには木道と静かな静かな湿原が広がっていた。掲示板には標高 2,000㍎余りで大小の池塘が無数広がり初夏には色とりどりの高山植物で彩られると。しかし今は草紅葉の湿原が広がる。尾瀬沼より標高が高く木道ほか東京電力の管理下にあるようだ。木道の一番北端から堂々とした尾瀬の燧岳が望めた。避難小屋も見える。振り返ると大きな池塘にどっしりとした初冠雪の逆さ日光白根が静かな水面に写し出されていた。リーダーが用意し沸かしてくれたコーヒを感謝していただく。次回、金精峠から温泉ヶ岳—根名草山—日光沢温泉—鬼怒沼—物見山—大清水

の縦走を企画したいとリーダーが提案する。1時間ゆっくり楽しみ帰路同じ道を下山し日光沢温泉の露天に入り汗を流した。1日に4本の最終バスに間に合うよう、絨毯のように落ち葉に敷き詰められた遊歩道をまた紅葉を楽しみながら女夫淵を目指し下山。帰りのバスでは、紅葉グラデーション連発の愉快的な運転士さんのサービス満点観光案内を聞きながら帰路についた。 K 記

